優しさと成長を約束する言語活動を生かしたグループ学習の条件
グループ学習の世界標準にアクテイブ・ラーニングの基盤を学ぶ

上鶴間中学校　**最首　昌和**

Ⅰ　研究のねらい

昨今、言語活動を生かしたグループ学習の取り組みが数多く見られるようになった。

さらに、中教審で[a]指導改善の要とされる「[b]アクティブ・ラーニング」においても、[c]21世紀型能力の中核をなす思考力においても、[d]言語活動を生かしたグループ学習が求められている。

なぜそれほど重要視されるのか。

1　コミュニケーション能力を高める。
2　全ての生徒に授業参加を促し、学び漏れをなくし、理解を深める。
3　多様なものの見方、考え方に触れる機会を作る。
4　学び方を学ぶ。
5　協力してものを成し遂げる望ましい集団の在り方を体験する。

それは、このように、多くの[e]効果を引き出すことができるからだ。しかし、いろいろな授業実践を見て、これらの効果を確認しているのはみたことがない。評価確認の多くは、授業内容に関する部分だけにとどまっているのがほとんどだ。これではせっかくの効果も期待できない。

そこで、百年前に、言語活動によるグループ学習で学校改革を実現した[f]デューイに注目し、その流れをくむ教育実践にその答を求めた。

Ⅱ　グループ活動を成立させる4つの条件

第二次世界大戦前、アメリカの[g]社会理論学者は、個人作業より、グループ作業の方が、より正確で、より生産性も高く、より効果的、かつ効率的であることを発見した。これは、デューイらによって、学習に応用され、言語活動によるグループ学習が誕生、瞬く間に全米に広がった。そして、さらに大きな教育効果を引き出すために、どのような人間関係で、どのような活動が行われると、もっとも効果的な学習となるのかが研究され、次の[h]4つの条件がまとめられた。

4つの条件
1　互恵的相互依存の関係　・・基盤となる人間関係
2　活動の同時性・・
3　責任の明確化・・　活動の仕方
4　活動の平等性・・

この条件は、言語活動を生かしたグループ学習はもちろんのこと、あらゆる授業改善に効果を発揮する。そして、生徒の生活面、教師との関係に至るまで、大きな影響力をもつ。

1　互恵的相互依存の関係

グループで学習するには、[j]どのようなグループ人間関係が最も学習に効果的なのかを知らなければならない。

それは、競争関係ではなく、他を思いやり、共に成果が出るように協力して学び合う関係だ。これを「互恵的相互依存の関係」と言う。

授業では、この関係の大切さを生徒にしっ

かり説明して理解させる。そして、すべての学習活動で、その関係が成立しているかどうかを確認する。

身を乗り出して、
作業を手伝う　A中

効果のあるグループ学習になるか、ならないかは、この人間関係が基盤にあるかないかにかかっている。４つ条件の中で、もっとも重要な内容だ。

２　活動の同時性

決められた時間内で成果を上げるには、全ての活動が同時に始まり、同時に終わらなければ、時間をより有効に使えない。

どのような活動にも、様々な時間設定が必要だ。事前に考える時間。準備する時間。活動する時間。振り返りの時間。なかなか時間が切れないと予想される活動は、最初から制限時間を設ける。

すべての生徒が活動にきちんと参加するように、[j]タイマーなどを生徒が見えるところに掲示して、残り時間を示しながら、活動の切れ目を伝えていく。もちろんそれで活動が終わらない場合、生徒と相談して延長することもある。時間を意識して活動し、すべての活動が漏れなくきちんと行われているかチェックする。これらは、決められた時間を最大限有効利用する大事なポイントだ。

３　責任の明確化

先生役と生徒役。発言者と聞く人。質問者と解答者。活動にはそれぞれ決められた役割と参加の仕方がある。役割によって、求める効果が違う。それらをきちんと守ることで、すべての生徒の学習が保障される。だからこそ、[k]役割がはっきりとした学習構造の学習計画を立てることが、とても大切だ。

４　活動の平等性

海外では、学習活動に参加しているか、参加していないかは、[l]発言で確認する。ペアの学習では、クラスの半数の発言があり、４人班では、1/4 の発言が常にあるという具合だ。しかし、これが少し難しい。

クラスの半数が発言している様子　B中

その[m]理由は

１）活動に参加したがらない生徒がいる。
２）活動に参加したがらない生徒のために、やる気をなくす生徒がいる。
３)能力の高い子が､他の生徒を犠牲にして、自分だけが得するようにリーダーシップをとるものがいる。

などの行動が、よく見られるからだ。

多くの教師が、言語活動を生かしたグループ学習に二の足を踏むのは、たいていこのようなことに由来する。私はこれらに対して、次のような対策をとっている。

(１)生徒が参加しない原因を理解する。

(２)４つの条件の大切さ、特に互恵的相互依存の関係をしっかり理解させ、確認する。

①参加しない原因は、互恵的相互依存の関係の理解が不十分なことが多い。間違った答えもみんなの前ではっきり言えるような人間関係を作る。もし明らかに間違いの答えが出たら、なぜそのような答えになったかを、みんなで考えることも大切であることを理解させる。

②おとなしい子には、インタビュー形式で、発言を引き出す工夫をする。最初は戸惑いもあるが、少しずつ経験を積み上げると、まずは慣れた生徒に自分から話せるようになって

くる。

発言を引き出す努力　A中

（３）始まりの挨拶と、発言を聞いた後の賞賛と支援。そして、活動終わりの感謝の挨拶をきちんと実行させる。それを通じて、自分のためにきちんと応えてくれた相手の存在に気付かせる。

（４）互恵的相互依存の関係の良さを理解できて、協力しないとできないようなゲームを実施する。

例：椅子取りゲーム。ラウンドごと１つずつ椅子を減らすのは同じ。違いは、工夫して全員が座ること。このような互恵的相互依存の関係を理解させるゲームを行う。

漢字パズルに熱中　A中

私の場合、例えば、[n]漢字パズルをグループで行う。カードを組み合わせて漢字を作るパズルだ。みんなですべてやり遂げた時、どのグループもみんながそろって笑顔なのが印象的だ。

自分たちでペア　B中

（５）「男女ペアにしてほしいが、慣れない内はそうでなくてもかまわない」と伝え、グループ学習導入当初から４人組にしない。そして、生徒自らがペアを作るようにする。そうすると、参加に消極的な生徒は、同じような傾向の生徒とペアになる。しかし、活動が面白そうだと気付くと、次にはそのようなペアはなくなっている。

（６）細かい特徴をいくつも見つけるような、グループ作業の方がはかどるような活動をする。

（７）ペアで、「一行ずつ教科書読み」のような簡単な学習内容から始める。

（８）思い付きやアイディアをペアで交互に発言、また筆談して集める。このような集団成熟度が低くてもでき、チーム作りにもなる学習活動を実施する。

紙幣を使って　A中

（９）発言１回にゲーム紙幣１枚を払うというような授業参加（発言）をカウントできる学習活動を実施する。

これらの配慮も最初のうちだけだ。互恵的相互依存の関係ができてくると、人間関係への配慮もさほどいらなくなってくる。活動の平等性を狙って授業を進めていくと、本当に全員参加、全員満足、全員がためになる。そんな授業となる。

Ⅲ　成果と変容

次は、この４つの条件を意識して、授業を実施すると、生徒にどのような変容が現れるのか。私の体験を記したい。

１　人間関係の変容

距離がある初期段階　B中

（１）４月当初、ペアになるのも嫌がる生徒がたいていいる。机間支援しながら指示しないと机もきちんとつけない。ペアになるのが全体的に消極的である。時に同性ペアでも、作るのに厳しい時もある。

（２）２週間くらいたつと、隣の異性とペア学習がスムーズにできるようになる。まだ相手との距離があるので、みんなの声が大きい。静かにさせるシグナルが必要だ。

※静かにさせるシグナル：教師が手を上げると、生徒は口を閉じて、前を見向き、自分の手を上げる。気付かない生徒には、肩を軽くこんこんとたたいて教える。

(3)その後、相手との距離も近くなり、隣に気を使った話し声になる。

夢中　　A中

(4)2か月くらい経つと、額を寄せ合って、恋人同士がささやくような感じになってくる。

※ここまでは、4つの条件を意識しなくてもある程度できる。しかし、4つの条件の理解が深まると、3か月目くらいから次のような変容が現れる。

すぐ応援に駆けつける　A中

(5)相手を支援する生徒が増えてくる。

①おとなしい生徒や学習に消極的なものと積極的にかかわろうとする生徒が目立ってくる。相手を理解し、寄り添って、共に課題をやり遂げようとする。このような活動を通じて、場面緘黙の生徒もしゃべれるようになった例がいくつもある。障がいのある生徒がクラスにいる場合、このような活動が特に[p]効果的だと言われている。これも、このような人間関係で成り立っている学習だからだ。

②さらに慣れてくると、生活面においても、他人の荷物を持ってあげたり、仕事を積極的に手伝うようになったりする。

雪かきの後、「僕がスコップを片付けるよ」と言って、全員のスコップを集めていた生徒。「偉いね」と褒めると、「いつも授業では世話になっているから、ここでは、僕の方が、余裕があるから」だと言う。互恵的相互依存の関係をこのように理解して実行してくれるなんてありがたい。

2　学習の変容

(1)学習は、全てグループで行うわけではない。説明がメインの時は、みんな前を向いた一斉授業の態勢だ。しかし、4つの条件は生きている。個人競争ではなく、協力して学習することが基本だ。形は違い、グループの形もないが、これでもグループ学習にはなっている。説明の合間に、周囲の生徒と相談しながら学習していく。

一斉授業でも　C中

①授業を進めるうえで、見落としがちなことは、課題に対して、考える時間、準備する時間を作ることだ。急に答えさせるには無理がある。課題が出された後、その後の話し合いに参加したくて、個人で真剣にじっくりと考えるようになる。

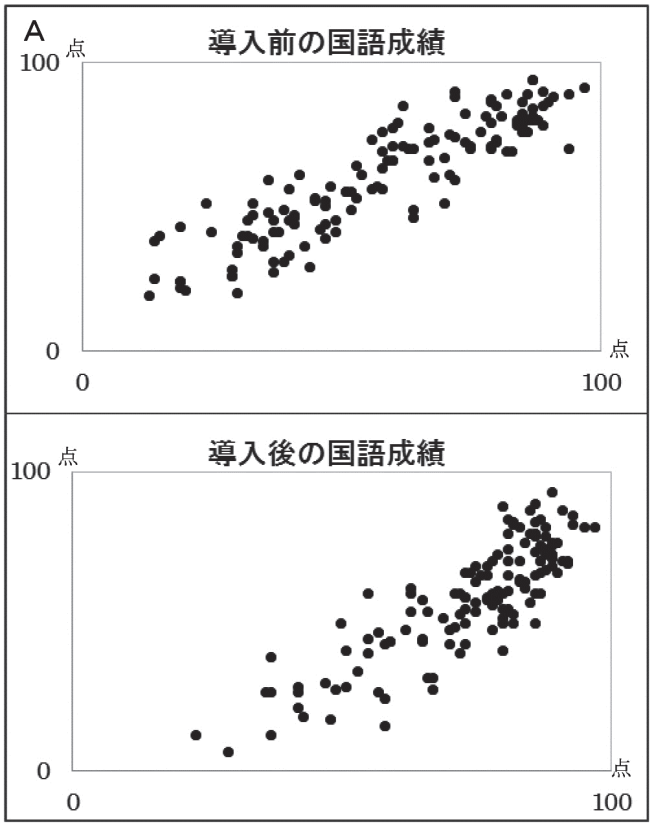
②[q]ルーレットを使って、だれに当たるかわからないようにする。これも、課題があたらないから大丈夫と油断する生徒を作らない大事なポイントだ。だれに当たるかわからないことで､みんな真剣に相談しながら準備する。

③複数の答えが出るような課題をあえて出題する。グループで取り組みながら、いろいろな考え方や体験を聞けて、気付きも多く、とても楽しい｡相手への理解も深まる｡そして、いろいろな意見のやり取りを経て、一人でやるより、正確で、自信がもてる意見が生まれる。

なぜ自信がもてるのか？問題に悩んだのは、一人ではなく、出した答も、自分の答ではなく自分たちの答だからだ。

④Aのグラフは、4つの条件導入前と導入後の試験結果だ。先行した試験を横軸に、後で行われた試験を縦軸に、2つの定期試験の結果で度数分布表を作ってみた。生徒の頑張りや試験の難易度の差もあるだろうが、それにしても右斜め上の固まり方は顕著だ。4つの

条件をきちんと徹底させれば、たった４か月の取り組みで、これほどの差が出るのだ。



(２)グループで活動

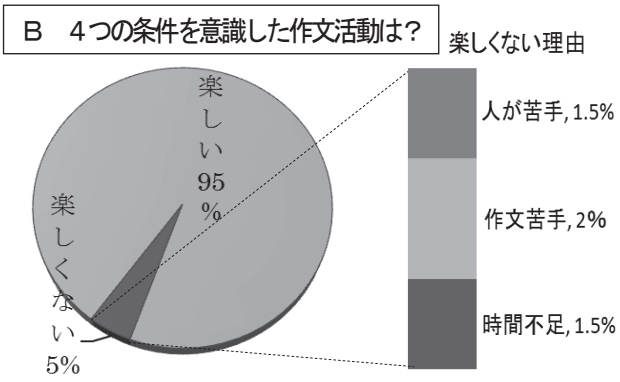
①グループで活動する場合、必ず最初に、挨拶をさせる。互恵的相互依存の関係を意識させるためだ。

私の場合、授業開始もクラスコールで始める。３年２組が決めたクラスコールは、リーダーが「できる、できる」と呼びかけると、みんなで「３の２できる」と応えて授業が始まる。チームでやる気を確認する。

②活動が終わるときは「ありがとうございました」と挨拶する。相手が自分のために、きちんと対応してくれたことへ感謝するためだ。「みんな仲間、つらいこともみんなで乗り切るんだよね。」だんだん慣れてくると、ハイタッチして、相手の活動をほめあうようになる。

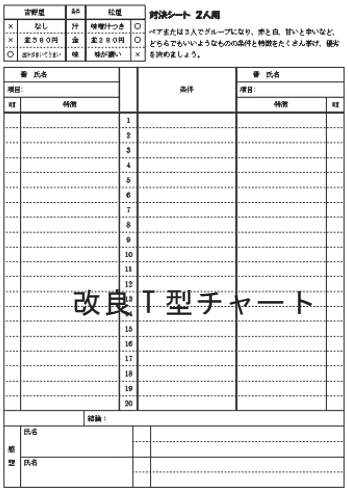
(３)グループ学習が大好き

Ｂのグラフは、作文の授業で、４つの条件を意識した活動で行うのは楽しいかどうか、１０月に２校で調査したものだ。９５％が作文の授業は楽しいと答え、１．５％が時間不足。これは、楽しいとも取れる解答だ。残り３．５％が苦手だという。作文は苦手なものが多く指導しづらい課題だ。しかし、圧倒的に楽しいが多い。



思いやりをもって接してくれる友達と、話し合いも十分積み、お互いの理解もかなり深まる。そんな仲間の存在に気付くと、学習も楽しくて仕方ない。さらに、わからないと同じ目線で優しく教えてくれて、できるとほめてくれる。「自分のためだけでなく、熱心に教えてくれた友達のためにも頑張るんだ。」そんな声をあちこちから聞くことができるようになる。

(４)学び方を学ぶ



①独自に改良を加えた２択の長所を競うＴ型シートを使った話し合い。課題は「お気に入りのお菓子のいいところ」対決だ。自分の考えを聞いてもらいたくて、思わず机をドンドンたたいてしまう生徒。授業が終わって、いったん止まるが、休み時間になったら、すぐさま再開。時間が過ぎても活動が止まらない。

②表に質問、裏に答えを印刷したフラッシュ

カードを使う。生徒はそれを持っていろいろなところで学習する。「いつも教わってばかりでなくて、時には役に立ちたいんだ」ある子がそうつぶやいた。

ﾌﾗｯｼｭｶｰﾄﾞで復習　B中

③僕が先生役。あなたが生徒役。生徒たちはまるで遊ぶように、授業でやった学び方を実践している。「今日はこの続きを僕の家でやろう。」提案していた生徒の目が輝いていた。

④話し合いの方法を学ぶ。

授業でやった話し合いのやり方を、他の授業でも実践しているのを見ることがある。役割は自然と決まり、発言も自然と平等だ。明らかに４月とは違った話し合いになっている。「理解してくれているだなぁ。」とそう気付いた時、うれしさが込み上げてきた。

話し合いは楽しい　A中

⑤多様なものの見方に気付き、その違いに学ぶ。

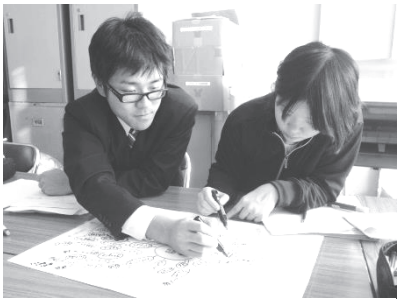
言葉はその人の体験を背負っている。その体験のぶつかり合いで新しい発見をする。答は単に正解不正解だけではない。体験に根差したもっと深い意味をもっている。発言を聞き出すことまでするからこそ、このような発言を聞くこともある。「そうか君の答は、そんな経験から来ているんだ。」言葉が真に共有された瞬間だ。

(５)活動の振り返り

活動の取り組みに対する振り返りは、活動中、４つの条件を確認することと課題への取り組み結果が振り返りになるので特にいらない。生徒は、授業で出された課題に集中すればいいのだ。振り返りが容易なため、海外では小中学校を中心に広まっている。

３　教師の変容

授業で生徒に強調する内容は、教師の行動にも影響を与える。互恵的相互依存の関係は、教師同士の関係にもなってくる。そして、誰かのために役に立とうとする努力が顕著になってくる。



教師もペア学習

学校を上げて、４つの条件を重視した活動に取り組む鳥取県の小学校の様子を聞いた。やればやるほど教師同士も、さらには保護者との関係も、とても和気あいあいとなってくるそうだ。

Ⅳ　今後の課題

私はこのような研究を１０年にわたって、３校で実践してきた。資料は少なく、アメリカから本を取り寄せ、翻訳しながら、大学の専門の先生に相談しつつ取り組んできた。

一人で何をしても限界がある。私を囲む多くの先生方のご支援とご協力、生徒の理解があっての成果だと思う。しかし、かかわった生徒たち全て、どの学校においても、変化は見違えるようであり、授業に楽しみを作り、素晴らしい人間関係を生み、学習成果を上げてきた。

自分の研究の成果を話したとき、「アメリカの教育が進んでいるとは思えない。」と海外視察の経験がある先生がおっしゃった。しかし、インターネットの時代、英語文化圏に世界の情報が集まってくる。世界の最新が英語文化圏に集められているのだ。いろいろな世界的学会が英語文化圏で開かれているのも事実だ。いつまでも日本の教育水準が高いと

安心していてはいけない。英語が理解できないだけで、世界的にマイナー言語である日本語を話しているだけで、世界の交流から、世界の文化から遠のいているのだ。

今回紹介した４つの条件を生かした活動の実践例は、海外ではとてもポピュラーだが、日本では少なく、相模原で、まず知っている人に会ったことがない。

アメリカでは当たり前になっている学習活動だから、アメリカのドラマを見ても、ユーチューブを見ても、たくさん実践を見ることができる。世界４０カ国でワークショップが開かれ、オランダなどでは、国を挙げて実践している。

今回の論文をきっかけに、すこしでも多くの人に実践してもらいたい。そして良さを味わってほしい。

デューイが理想としたように、この取り組みがさらなる広がりを見せ、社会全体が互いに助け合い、優しさにあふれた状態になるようにするのが私の目標です。

この論文を作成するにあたって、ご指導援助いただいた創価大学の関田一彦教授、翻訳にご協力いただいた栗田豊久先生、早稲田大学の渡辺さんに、また、ご支援、ご協力いただいた旭中学校、上溝中学校、上鶴間中学校の先生方、生徒の皆さんにこの場を借りてお礼申し上げたい。

《引用文献・参考文献・解説》

a)指導改善の要

学生が主体的に問題を発見し解を見いだしていく能動的学修（アクティブ・ラーニング）への転換が必要である。

『新たな未来を築くための 大学教育の質的転換に向けて～生涯学び続け、主体的に考える力を育成する大学へ～（答申)』４．求められる学士課程教育の質的転換（学士課程教育の質的転換）P9 平成２４年８月２８日中央教育審議会

b)アクティブ・ラーニング

アクティブ・ラーニングの実践のほとんどが、言語活動を生かしたグループ学習である。

『アクティブ・ラーニング事例集』 長崎大学
http://www.innov.nagasaki-u.ac.jp/teacher/activeLearning1.html

『分野別教育におけるアクティブ・ラーニングの事例研究対話集会開催結果報告』 私立大学情報教育協会
http://www.juce.jp/senmon/al/index.html

『高等学校におけるアクティブラーニング型授業の実践』 河合塾
http://www.wakuwaku-catch.com/%E3%82%A2%E3%82%AF%E3%83%86%E3%82%A3%E3%83%96%E3%83%A9%E3%83%BC%E3%83%8B%E3%83%B3%E3%82%B0/?mobile=1

c)21世紀型能力

21世紀型能力の中核に、「一人ひとりが自ら学び判断し自分の考えを持って、他者と話し合い、考えを比較吟味して統合し、よりよい解や新しい知識を創り出し、さらに次の問いを見つける力」としての「思考力」を位置づける。

『教育課程の編成に関する基礎的研究 報告書5 社会の変化に対する資質や能力を育成する教育課程編成の基本原理』P27 国立教育政策研究センター長 勝野 頼彦

d)言語活動を生かしたグループ学習

グループで協同的に問題を解決するため，学習の見通しを立てたり，調査や観察等の結果を分析し解釈したりする話合いを行う。

『文部科学省 現行学習指導要領・生きる力 先生応援ページ（指導資料・学習評価等)』文部科学省ホームページ
http://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/new-cs/gengo/1306120.htm

e)効果

言語活動の充実に関する指導事例集 ～思考力，判断力，表現力等の育成に向けて～【中学校版】P1～9 文部科学省

『先生のためのアイディアブック』P10 ジョージ・ジェイコブズ マイケル・パワー ロー・ワン・イン
ナカニシヤ出版

f)デューイ

「言語によってわれわれが自己の経験を他人にあたえ、逆に他人の経験を受け取るための手段」(P69)とし、「子どもはもっと大勢のおとなと、そしてもっと大勢の子どもと接触させられなければならぬ」(P51)さらに、競争主義、知識偏重主義を否定し、「学科を学ぶべき場合には、互いに助け合うということは、協力と結合との最も自然な形態」(P28)とした。

『学校と社会』 デューイ 宮原誠一訳 岩波文庫

g)社会理論学者
ゴードン・オールポート(人格は他者と相互作用する社会生活によって段階的に形成される)、ジョン･B･ワトソン(環境によって人格が決定する)、クリフォード・ショー(集団によって人格が影響する)、ジョージ・ハーバート・ミード(人間間の社会的相互作用を研究、デューイと共同研究)
Cooperative_learning　wikipediaより
https://en.wikipedia.org/wiki/Cooperative_learning

h)４つの条件
モートン・ドイッチ(コロンビア大学社会心理学教授。紛争解決心理学の提唱者)によって、グループ学習に必要な人間関係は、「互恵的相互依存の関係」と定義した。グループ活動に必要な3つの関係は、スペンサーケーガン(元カリフォルニア大学バークレー校の教育学臨床心理学教授)によってまとめられた。
Morton_Deutsch　wikipediaより
https://en.wikipedia.org/wiki/Morton_Deutsch
「KAGAN COOPERATIVE LEARNING」5章P9～P12
Spencer Kagan Miguel Kagan kagan publishing

j)グループの人間関係
グループダイナミクスの提唱者で、エンカウンターのもとを作ったクルト・レヴィンは、学習の成果を上げるには、グループメンバーの関係をきちんと確立しなければならないと訴えた。
Kurt　Lewin　wikipediaより
https://en.wikipedia.org/wiki/Kurt_Lewin

k)タイマー　iPad用アプリ　iFlipTimer

l)役割がはっきりとした学習構造
役割がはっきりとした学習構造が、コーペラティブラーニング(協同学習)によってまとめられ、効果によって整理されている。
Ⅱ4(5)自分たちでペア　クイズ・クイズ・トレイド
Ⅱ4(8)アイディアをペアで交互に発言して、また筆談で集める　ラリーロビン・ラリーテーブル
Ⅱ4(9)　スベンド・ア・バック
Ⅲ2(4)④　フラッシュカードゲーム
詳細は
「KAGAN COOPERATIVE LEARNING」6章P24～38
Spencer Kagan Miguel Kagan　kagan publishing
日本語化した同じの内容のものは、
『先生のためのアイディアブック』P188～189にアクティビティーの目次記載
ジョージ・ジェイコブズ　マイケル・パワー　ロー・ワン・イン　ナカニシヤ出版

m)発言で確認
「アメリカの教育理念では『自らが学ぶ』ことを重視しており、(中略) 学生がクラスの中で発言して自分の考えを相手に提示することは、新しい英知を皆がそれぞれに発見するための『義務』であり『貢献』と考えられています。」このような理念のもと、発言をもって授業参加としている。
『アメリカ大学・大学院留学の基礎知識　教育理念』日米教育委員会（フルブライト・ジャパン）ホームページ
http://www.fulbright.jp/study/abc/index.html

n)理由
『アクティブラーニング失敗事例ハンドブック』
※コーペラティブ・ラーニングにも当てはまる。
三重大学、副幹事校:静岡大学、名古屋産業大学、金城大学短期大学部、名古屋商科大学
http://www.nucba.ac.jp/archives/151/201507/ALshippaiJireiHandBook.pdf

o)漢字パズル　漢字博士№2　馬場雄二

p)効果
新しい学びの形としての協同学習が注目を集めている。(その効果として、特に次の3つを上げる。以下要約)
①役割が明確で発言しやすかった。
②他の子どもに関わるきっかけができた。
③グループからの賞賛が意欲につながった。
『発達障害研究から考える通常学級の授業づくり』P136　宇野宏幸・井澤信三・小島道生　金子書房
『特別支援学校と小・中学校との交流及び協同学習の推進　成果報告書（概要)』文部科学省ホームページ
http://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/tokubetu/main/006/1321951.htm

q)ルーレット　Roulette（iPhoneアプリ）